

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（8月）

留学先：The University of Findlay

氏名：本田 涼哉

### ◎自己紹介

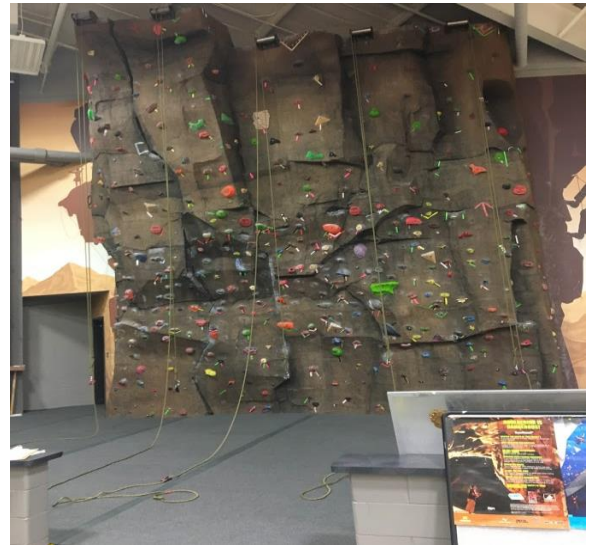
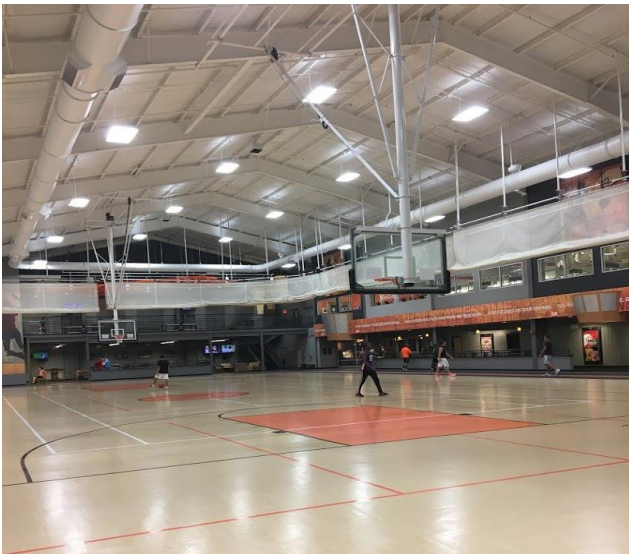
今年度、福井大学からアメリカ、フィンドレー大学に交換留学生として1年間留学いたします、本田涼哉と申します。教育地域科学部学校教育課程の4年生で英語教育を専攻しています。将来は英語教師を目指しており、この留学では確かな英語力を身に付けることはもちろん、幅広い学問に触れたり、ボランティアや教育活動に従事したりするなど、自分にとって成長期間となるような様々なことにチャレンジしていきたいと思っております。

本報告書ではフィンドレー大学での留学生活について詳しく述べていきたいと思っております。どんな授業を受けているか、アメリカでの大学生活はどのようなものなのかなど、アメリカでの留学について知っていただけたら幸いです。



### ◎フィンドレー大学について

フィンドレー大学はオハイオ州フィンドレー市にある大学で、教育、ビジネス、理学療法や作業療法や犯罪科学といった幅広い学問を扱っています。約3000人の学生が在籍しています。大学の規模としては、アメリカの大学の中でも小規模でだと思います。しかし、日本の大学と比べれば規模はやはり大きいです。キャンパス内に学生寮やハウスがあったり、飲食スペースやカフェも複数存在していたりと、全てが新鮮に感じます。



キャンパス内には複数のバスケットコートが存在し、ジムもあるため、スポーツができる環境が非常に整っています。スポーツが好きな僕にとっては、ジム（写真左）はやはりお気に入りです。勉強時間の合間を見つけては頻繁に通っています。さらに、ボルダリングが体験できる場所があるのはとても驚きでした（写真右）。定期的に通って、難しいコースにチャレンジしようかと思っております。

本報告書では、これからも大学の施設についても時折紹介していきます。

### ◎オリエンテーション (Welcome Week)

8月15日に日本の成田空港を出発し、長い時間のフライト後、デトロイト空港に到着しました。空港には、フィンドレー大学の日本語学科の学生が迎えに来てくれました。なんと、迎えに来てくれた学生2人は、8月上旬まで福井大学に留学していたフィンドレー大学の学生で、福井大学に留学に来ていた時から交流があったので、久々の再会を果たすことが出来ました。フィンドレー大学と福井大

学の継続的な交流があったからこそ、安心してフィンドレー大学での生活を始められそうでした。彼女たちとの交流はこれからも大切にしていこうかと思います。

最初の授業が始まる一週間は、留学生も含めた新入生歓迎のイベントが数多く催されました。フィンドレー大学での一つのシンボルである Arch の下を新入生がくぐることは、Oiler（フィンドレー大学の学生の呼び名）としての新生活のスタートを意味します。Arch をくぐると、フィンドレー大学すべての教授の方々が迎えてくださり、新生活のスタートを感じさせるイベントでした。また、大学独自の文化や伝統を築き、継承していく精神は日本の大学にはあまり見られないものではないかと思います。授業料の手続きや ID card の作成などもオリエンテーション期間で行いました。

様々なイベントが行われましたが、なかでも衝撃的だったのが、「UF Block Party」と呼ばれるイベントで、アメリカらしい、ビッグなアトラクションが運動施設の中で楽しめるイベントでした。そのイベントで留学生同士での交流も深めることが出来ました。



また、なんとかして現地での学生の友達を作ろうと思い、単独行動でイベントに参加しようと歩き回っていたところ、たまたま通りかかった学生にキックベースのイベントに誘われ、日本人単独で参加しました。イベントに誘ってくれた学生とは、今でもキャンパスで会うと声を掛けてくれます。これからさらに交流を深めていこうと思います。

(右の写真を撮影した時の時刻は、なんと午後8時半で、日本ならずすでに暗い時間帯に、フィンドレーでは青空が広がっています。一日の行動時間の長さの違いを肌で感じました。)

### ◎Masculinity についてのレクチャー

すこし学問的な話題になりますが、強く印象に残ったため、少し書かせてください。

「Masculinity (男性らしさ)」という言葉聞いたことがありますか。オリエンテーションのうちの一つのイベントで、Campus Safety のことについてのレクチャーを受けました。そこで Gender Discrimination (男女差別) についての話題も扱われており、私はその言葉をそこで初めて知りました。「男のくせに敏感すぎる」といった言葉を言われたことがないですか？」という問いかけがなされ、男性に対する偏見についての問題を取り扱っていたのです。日本では、少なくとも私の経験上、「男女差別問題」という言葉を聞くと、女性に関わるトピックを思い浮かべることが多いです。しかし、フィンドレー大学でのそのレクチャーの内容を聞く限りでは、男性に対する問題も焦点に当てられているようです。

そのレクチャーを聞き終えた後、フィンドレー大学に新しく建造される建築物の工事現場を通りかかりました。そこでは、女性も現場で働いていました。

アメリカという国、すくなくともフィンドレー大学では、「男女平等」を本気で実現させようとする強い姿勢を垣間見ることが出来ました。



### ◎Solar Eclipse

8月21日、月曜日は授業が開始する日であり、同時に、今年限定のビッグなイベントもありました。めったに見られない皆既日食を観測できる日でした。ピークの時間帯である午後2時半が近づくと、多くの教授が授業を一旦中断し、みな一斉に集まり、日食を観察しました。日食観察のイベントも開かれ、携帯のカメラに張り付ける日食観察用のフィルムも無料で配布され、みな空にカメラをもって見上げていました。フィンドレー大学に留学に来ていたことによって貴重な体験をすることが出来ました。



今月の報告は以上になります。来月の報告書からは、大学で従事している活動や授業についても触れていきたいと思います。